

パーフィットの人格の同一性について

滝口 晶乃

本研究では、人格の同一性の問題におけるデレク・パーフィットの主張を、任意の人物を扱う人格の同一性の問題と、世界にただ一人しかいない 私 の同一性の問題という二つの問題を対比しながら、考察して行く。

まずはパーフィットの主張の基礎となっている、ジョン・ロックの記憶説をまとめた。ロックは人格を一人称的で心理的な概念と見なしており、人格の同一性は意識によってなされ、意識が続くことによって人格が継続して存在出来るのだと考えた。

次に本研究で中心的に取り扱う、パーフィットの主張をまとめた。パーフィットはロックの記憶説を受け継ぎ、R 関係という心理的な繋がりによって人格の同一性を説明した。そしてパーフィットは、人格の同一性を説明する際には「人格が常に同一である」という前提は必要なく、心理的継続性だけをもって人格の同一性は説明出来てしまうと考えた。これは人格の同一性は重要なことではなく、重要なのは R 関係であるという見解である。

それからこのパーフィットの主張に対して、批判的な意見を述べている先行研究として、本研究では坂倉涼と永井均を検討した。坂倉は「なぜこの身体は 私 なのか」という疑問から、私 という一人称的思考と三人称的身体の関係を考察する。その上で、人格の同一性の問題における一人称的視点と三人称的視点を整理する。永井は人格の同一性としての「私」の同一性と、世界にただ一人しかいない 私 の同一性という問題の立て方をし、「私」と 私 という二つの私を区別して、これらの問題の考察を進める。

さらにこれらの問題を踏まえて、坂倉と永井はパーフィットの主張の中では、「私」と 私 が区別出来ていないという点を指摘している。パーフィットはこの身体を 私 たらしめている事実を「私に関するさらなる事実」と呼び、この事実の存在を否定している。しかし彼の主張の中には、その事実が既に含まれてしまっていることを両者は指摘している。

そして最後に本研究では、これらの先行研究を踏まえて、人格の同一性の問題を 私 の同一性の問題と比べながら考察し、パーフィットの主張には「私」と 私 の混同という問題点があると論じた。その上で人格の同一性の問題と 私 の同一性の問題を別立てて考え、私 の存在を認め、パーフィットの間違いを指摘しながらも、彼の心理的継続性によって人格の同一性を説明するという主張は残る、という点を示した。

(指導教員 横山幹子)